

丹波篠山市の産科充実にむけての検討会（専門部会）のまとめ

1. 経緯、経過

第6回丹波篠山市の産科充実にむけての検討会（R2.12.12）において、市立パースセンターを含めた具体的な提案、方向性を検討するために、今後は助産師等を中心に専門部会を設置し協議していくこととした。

2. 専門部会の構成とメンバー

検討会委員4人と健康課職員3人で専門部会を設置する

○専門部会委員

土性里花、成瀬都（助産師）、高瀬晶子（助産師）、深田和泉（助産師）
山下好子、吉田久仁子、堂東美穂

※必要に応じて、健康課職員も参加した

3. 会議の開催状況

令和2年1月から4月まで計5回開催（いずれも丹南健康福祉センター）

- ・第1回 令和2年1月17日（金） 午前10時から12時
- ・第2回 令和2年1月31日（金） 午前10時から12時
- ・第3回 令和2年2月7日（金） 午前10時から12時
- ・第4回 令和2年3月27日（金） 午前10時から12時
- ・第5回 令和2年4月13日（月） 午前10時から12時

4. 会議の内容

	参加人数	検討内容	備考
R2.1.17(金)	5人	パースセンターの目的や位置づけ、設置主体や設置体制について、助産師の確保、医療機関との連携について現状や課題について My助産師制度導入にむけた課題の整理、今後の方向性について	
R2.1.31(金)	7人	同上	
R2.2.7(金)	7人	パースセンターで実施する内容について、2月15日の検討会にむけたまとめについて	2/15 第7回産科検討会

R 2.3.27(金)	8人	妊娠から出産、産後の流れ（案）をバースセンター、オープンシステム利用、My助産師添いバージョンそれぞれについて検討 4月からのささやま医療センターの産婦人科体制等について、済生会、三田市民、丹波医療センター（報告）と協議 My助産師ケアセンターの体制について検討	
R 2.4.13(金)	6人	My助産師ケアセンターの体制について検討 ふたばとの連携について検討	
R 2.5.22(金)	4人	丹波医療センター助産師との協議	

5. 周産期における課題

- ・妊婦がローリスクもハイリスクも含めすべてのお産を医療で管理されている。医療機関への集約化が進むと、ローリスク妊婦のケアや観察が不十分になる可能性がある。
- ・安全に産むだけでなく、産前・産後の妊産婦支援がしっかりできる体制と、妊婦が主体的かつ健康的な妊娠、出産、子育てを支えるしくみが必要である。
- ・産後の赤ちゃんは新生児室で管理され、母子の愛着形成に問題、育児不安の増加が懸念される。
- ・お産による入院期間が短縮されると、産後うつ等のリスクが高くなる。
- ・病院で出産することが当たり前になっている。妊婦や市民のニーズ把握と共に意識を変えていく取り組みが環境づくりとして必要である。
- ・広域で安全な医療体制の構築が不可欠である。
- ・母子に対する県の連携システムはあるが、丹波圏域には地域周産期母子センターが未設置である。
- ・バースセンター設置には嘱託医と嘱託医療機関が必須であるが、3病院の意向をみるとその確保が難しい。

6. 今後の取り組みの方向性

- ・全妊婦に対して『My助産師制度』をはじめていくことで妊婦のニーズを把握し、**My助産師によるきめ細やかな産前産後ケアを提供し、寄り添い支援を充実させる。**
- ・全ての妊婦に『My助産師制度』が必要なため、**助産師の確保が必要**（6月補正で対応）
- ・丹波医療センター、済生会兵庫県病院等との連携を密に行い**My助産師ケアセンター（仮）**を開設し妊産婦の支援を強化する。